学校番号	206

令和２年度　地理歴史科

教科	地歴	科目	地理Ｂ	単位数	３単位	年次	２年次
使用教科書	新詳地理Ｂ(帝国書院)、新詳高等地図(帝国書院)						
副教材等	新編地理資料(東京法令出版)、地理統計(帝国書院)、 サクシード地理(啓隆社)、新地理の研究(啓隆社)						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校で学習した内容を基礎にして、自然環境や経済地理を学びます。空間的な規則性、傾向性を系統地理的に学びます。地理的技能・思考力を習得し、それを元に各地にみられる課題について地球的な視野から理解できるように学びます。

２　学習の到達目標

１．現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察することができる。
２．ある地理的事象がそこにみられる理由や背景を考察することができる。
３．世界各地の地域的特色を一般的共通性と地方的特殊性の視点から追究することができる。
４．地域の変容を捉え、地域の課題や将来像について考察することができる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本や世界が抱える地理的な諸課題について、関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	日本や世界が抱える地理的な諸課題について、これまでの歴史的経緯などをふまえ、その解決の方向性や将来像などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	現代世界の日本や世界に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに全世界が抱える地理的な諸課題の原因や今後の展望などが読み取ることができる。	さまざまな規模の地理的な諸課題を抱える日本と世界の現状と今後重要となる取り組みを理解し、その知識を身につけている。
評価方法	発表 振返り	定期考査 小テスト	定期考査 発表 小テスト	定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期(中間)	地理情報と地図	○地図の発達 ○地図の種類とその利用 ○地理情報の地図化	○		○		a:地図の読図や比較、地理情報の地図化などの活動を通して、現代世界の地図に対する関心と課題意識を高める。 b:時代背景や地図の中心の違いなどによる世界観を考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 c:地形図の読図などを通して、調査内容に関する地域の情報を適切に収集・選択できる。 d:地図の種類や統計地図の種類や長所短所、適する用途を理解し、その知識を身につけている。	定期考査 確認テスト 発表等
前期(期末)	世界の地形	○世界の大地形 ○外的営力によってつくられる小地形 ○その他の地形	○	○		○	a:特徴、成因などについて関心を高め、災害や土地利用など人間生活とのかかわりについて意欲的に追究し、とらえようとしている。 b:分布や特徴を成因と関連付けて考察するとともに、人間生活とのかかわりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 c:地形図や写真などの資料から、有用な情報を適切に選択し、その地域の地形の特徴と成因を読み取ることができる。 d:分布や特徴、成因や人間生活とのかかわりについて理解し、その知識を身につけている。	定期考査 確認テスト 発表等
後期(中間)	世界の気候　日本の自然の特徴	○気候の成り立ち ○世界の気候区分 ○植生と土壌 ○日本の地形・気候 ○日本の自然災害と防災	○		○	○	a:地域ごとの気候の違いや人間生活との関係に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 b:地域ごとの違いや特徴を、地球規模の循環現象などと関連付けて考察するとともに、人間生活とのかかわりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 c:地域や気候区ごとの違いを示す雨温図などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、その特徴や相違点などを読み取ることができる。 d:各気候区の特徴、気候変動と異常気象などについて、人間生活への影響などを理解し、その知識を身につけている。	定期考査 確認テスト 発表等

後期（期末）	世界の農林水産業	○農業の発達と分布 ○世界の農業区分 ○現代世界の農業の現状と課題 ○世界の林業･水産業 ○日本の農林水産業 ○食料問題	○	○		○	a:現代世界と日本の農林水産業に対する関心と課題意識を高め、農業の成立条件などを踏まえてそれらを意欲的に追究し、とらえようとしている。 b:現代世界や日本の農林水産業の現状と課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 c:現代世界や日本の農林水産業の生産や分布の特徴に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、現状や課題について読み取ることができる。 d:自然条件や社会条件の違いと関連付けて農業の地域区分や各農業の特徴を理解し、その知識を身につけている。	定期考査 確認テスト 発表等

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。